

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日2009年1月20日

1. 概要

実践団体名	特定非営利活動法人 ひまわりの夢企画		
連絡先	電話078-787-7387 代表 荒井 勳		
プランタイトル	防災楽習迷路の制作と出前		
プランの対象者	保・幼稚園児、小学生 (低・高学年)	対象とする 災害種別	地震・火災

【プランの概要】

- 1、改良型防災楽習迷路及び運営ソフトを再制作します。
- 2、一般公募で、希望の小学校10校に出前授業をします。
- 3、他のイベントとの共催、他の教材との併用、融合等のコラボレーションも検討します。
- 4、プラン終了後は、出前実費を頂きNPOの防災教育活動を維持継続して行きます。

【プランの目的・ここがポイント！】

2007年春に初制作。地域団体等に出前。子供たちの目の輝きに、防災授業に利用出来ないかと考え、「防災教育チャレンジプラン」に申請しました。将来を担う子供たちに、防災を楽しく習う教材として迷路を再制作。出前授業の実践を重ねながら問題点を見つけて改良を重ね、防災教材としての完成度の高い防災楽習迷路にすることが最終目的です。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- 1、発想の転換
迷路は、本来行き止まりを避け最短時間で出る事を競いますが、この迷路は、行き止まりを探すという逆手法に発想を転換し、遊び心に防災心を刷り込む体験型の防災教育教材です。運営ソフトの開発は、かなりの手法の広がりが見込まれます。
- 2、迷路のコース・面積は多様に展開可能
格子状の板を繋ぎ、迷路を組み立てます。通常は、10m×10m=100㎡程度で公開していますが、場所に合わせて、形も面積もコースも多様に変化が可能です。
- 3、ソフトも進化を続けます
①地震で家が壊れ迷路に…と仮定して絵カードを探しだす3パターン→小学生向け
②迷路を一つの町として仮定。「防災マップを作ろう」を新作→中高生・一般向け
- 4、当プラン認定の、帯解小・岐阜アソシア・地球防災隊とコラボ交流しました。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	防災楽習迷路の設 計・制作	制作打合せ 制作立会い 出前先打合せ	市教育委員会へ出前先紹介依頼 マスコミ各社に広報依頼 迷路ソフトの制作
2008年 7月	出前内容の検討	出前先の開拓 出前先打合せ	出前① 1日、奈良市立帯解小学校 (奈良市)
2008年 8月		出前先の開拓 出前先打合せ	② 16日17日 防災未来学校 主催・人と防災未来センター ③ 31日神戸市立こうべ小学校 主催 (財)兵庫県青少年本部
2008年 9月	迷路ソフトの改良 検討	出前先の開拓 出前先打合せ	
2008年 10月	迷路ソフトの改良 検討	出前先の開拓 出前先打合せ	④ 6日 私立羽場保育園(三木市) ⑤ 8日市立枝吉小学校 ⑥ 12日岐阜盲学校・岐阜アソシア ⑦ 14日市立多聞ひまわり幼稚園 ⑧ 21日私立学が丘幼稚園
2008年 11月	迷路ソフトの改良 検討	出前先の開拓 出前先打合せ	⑨ 17日市立太山寺小学校 ⑩ 27日私立東須磨小学校
2008年 12月	最終報告書の作成 プラン検討	改良ソフトの制作 出前先打合せ	⑪ 11日三木市立自由が丘東小学 校(三木市)
2009年 1月	最終報告書の作成	出前先打合せ	⑫ 15日市立北山小学校 ⑬ 17日メモリアルウオーク会場 (HAT神戸なぎさ公園) 主催 兵庫県防災企画局

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年7月1日
実施場所	奈良市立帯解小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勳 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分授業を3コマ ①1～3年生迷路 ②4～6年生迷路 ③4～6年生震災講和
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	全校児童 150名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約30,000円
成果と課題	【成果】 同じ認定団体とのコラボで奈良まで出向いたが、学校自体の受入体制が好意的で、順調に実施が出来ました。防災楽習迷路に目を輝かせる児童に、自信を頂きました。 【課題】 特になし
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年8月16日17日
実施場所	人と防災未来センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勲 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時～16時の公開で2日間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 受付にて迷路の説明・入場 3、 出口で絵カードを確認・退場・ 4、 終了・解体片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	200名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約30,000円
成果と課題	<p>【成果】阪神大震災の記念館という特殊な場所だけに、防災に興味のある人の参加が多かった。</p> <p>【課題】お盆の最中で入館者が少なく残念でした。日程も大切。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年8月31日
実施場所	神戸市立こうべ小学校 主催（財）兵庫県青少年本部
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勳 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時～12時 2時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	120名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	【成果】 県の心豊かな人づくり500人委員会の学習会を兼ねていたため、大人も多数体験した。 【課題】 大人には、上部添え木（バー）が低く腰が痛いと言われた。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年10月6日
実施場所	私立羽場保育園（三木市）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時～12時 2時間 年中組・年長組の2グループに実施
プログラムのカテゴリ、形式	出前授業・その他
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	100名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	<p>【成果】保育園児用に迷路材を上下逆に組み、低くしたら園児たちは不安なく体験していた。出口から元に戻る子が「まだ出たくない」といった。疲れが取れる瞬間である。</p> <p>【課題】特になし。年少組はさすがに無理なようだ。</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年10月8日
実施場所	神戸市立枝吉小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勲 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分授業を5コマ ①6年生 ②2年生 ③5年生 ④1年生 ⑤4年生（3年生は遠足で不在）
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	児童308名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	【成果】3年は遠足で不在でしたが1～6年生で楽しく授業ができました。初めは不安顔の先生も終わる頃には感心してくれました。 【課題】1年から6年まで5時間続けたらさすがに疲れました。
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑥】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年10月12日
実施場所	岐阜県立岐阜盲学校 ・主催（社福）岐阜アソシア
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	9時～15時 6時間
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	視覚障害者に、遊び・楽しみながらの防災を学んでもらう
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽集迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽集迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	来賓・サポート隊含め約 300名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約40,000円
成果と課題	<p>【成果】視覚障害者に迷路が使えるのか不安でしたが、杖を使うと健常者と殆ど変らない進み方をしたのは驚きました。天災は、健常者にも非健常者にも平等にやって来ることを広報する必要性を学びました。</p> <p>【課題】</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑦】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年10月14日
実施場所	神戸市立多聞ひまわり幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勲 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時～12時 2時間 年少組・年長組の2グループに実施
プログラムのカテゴリ、形式	出前授業、その他
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 別室で大地震が起きた時の経験談を20分する 3、 迷路の説明 4、 親子で迷路体験 5、 出てきた親子から帰宅する 6、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	園児70名 父母70名 計140名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	<p>【成果】お母さん方と手をつないで体験して頂きました。アンケートを取ると、忘れかけていた震災体験を子どもに引き継ぐ大切さが書かれたものが多数ありました。</p> <p>【課題】お母さん方に腰が痛いと言われ笑って逃げました。</p>
成果物	貴重なアンケートを多数

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑧】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年10月21日
実施場所	私立学が丘幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時～11時 1時間 年長組に実施
プログラムのカテゴリ、形式	出前授業、その他
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	園児74名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	<p>【成果】幼稚園対応も慣れたのか楽しく実施できました。 先生方も喜んでくれました。</p> <p>【課題】特になし</p>
成果物	先生方のアンケート

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑨】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年11月17日
実施場所	神戸市立太山寺小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勳 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分授業を2コマ ①1～3年生迷路 50名 ②4～6年生迷路 40名
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	6、 防災楽習迷路の組み立て 7、 迷路の説明 8、 迷路体験 9、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	児童 90名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	【成果】全校児童が少なく、縦割りの班で兄弟のように楽習していました。 【課題】特になし
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑩】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年11月27日
実施場所	神戸市東須磨小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	11時30分～12時30分 1時間 6年生66名
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	10、 防災楽習迷路の組み立て 11、 迷路の説明 12、 迷路体験 13、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 14、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	児童66名 父兄10名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	【成果】 授業参観で父兄の見ている前での防災楽習迷路でした。山下校長も体験型の面白い教材とほめられました。 【課題】 特になし
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑪】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2008年12月11日
実施場所	三木市立自由が丘東小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	11時～12時 1年生63名
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> 1、 防災楽習集迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	児童63名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	<p>【成果】 三木市と神戸から少し離れていましたが、近くに県立の防災公園があり、学校も防災教育には力を入れているようです。</p> <p>【課題】 特になし</p>
成果物	

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑫】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2009年1月15日
実施場所	神戸市立北山小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	45分授業を6コマ ①1年生 ②2年生 ③3年生 ④4年生 昼食後 ⑤5年生 ⑥6年生 全校生391名
プログラムのカテゴリ、形式	総合的な学習の時間
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	子供たちの遊び心の中に、防災心を刷り込む
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、 防災楽習迷路の組み立て 2、 迷路の説明 3、 迷路体験 4、 残時間で大地震が起きた時の経験談をする 5、 終了・解体片付け
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名
参加人数	児童391名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約20,000円
成果と課題	【成果】1日で、1～6年の全校生391名に6時間をかけ防災楽習迷路をしたのは初めてでしたが、無事に完了できました。 【課題】体育館で実施。マイクを使い説明をしたが、声が割れ聞こえにくいとの事で、肉声で6時間。発声の訓練の必要性を感じた。
成果物	児童・先生のアンケート（最終発表会で公開予定）

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑬】

タイトル	防災楽習迷路の出前
実施月日（曜日）	2009年1月17日
実施場所	ひょうご安全の日のつどい（兵庫県・中央区なぎさ公園・人防前）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者・講師兼任 氏 名：荒井 勳 所属・役職等：ひまわりの夢企画・代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	8時半～組立 10時～15時半公開 解体～16時半終了
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・たのしみながらの防災 防災に関する知識を深める
達成目標	防災楽習迷路を使い、新ソフト「防災マップを作ろう」の初公開
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、 迷路の組み立て 2、 防災マップについての解説 3、 迷路を町と仮定して、マップ作りの疑似体験 4、 仕上がったマップのチェック 5、 「次はあなたの町の防災マップづくりを」で締めくくり 6、 迷路の解体
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災楽習迷路資材1式 資材の運搬1名 担当者・講師兼任1名 ボランティア11名（うち地球防災隊4名・舞子高校生5名）
参加人数	約200名
経費の総額・内訳概要	運搬費他約50,000円
成果と課題	【成果】新ソフト「防災マップ」の初公開をしました。阪神大震災の記念日でもあり、大人がマップシートを手に真剣に取り組んでいました。防災教育の新しい道の広がりを感じました。 【課題】シートに記号を書き込むため、所要時間が一人10分程度かかり、回転が悪い。深い知識を得るためには必要にも思えるが…。

2008年度防災教育チャレンジプラン
最終報告書

成果物

初公開「防災マップを作ろう」ソフトの好感触。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦労した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦労した点 工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、本来、子供の遊び道具で、レクリエーションの目的で作った迷路を、どう防災と結び付けて行くのか、どのようにしたら防災授業の教材として認められるのか？いろいろと思案しました。 2、「楽しみながら防災を習う」といった考え方を、先生方が受け入れてくれるのか？とても不安でした。 3、迷路を、「地震で家が倒壊し迷路のようになってしまった」と仮定したら、人命救助・防火活動・非常持ち出し品をさがす、といったアイデアが浮かびました。
<p>準備活動で 苦労した点 工夫した点</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1、小学校10校へ、出前授業をするという、プランを立てたので、その出前先の開拓に苦労しました。 2、市の教育委員会に、出前先の紹介を断られた時は、とてもショックでした。学校という組織の中に受け入れられるには、大変な努力が要る事を学びました。 3、マスコミに広報を依頼し、希望校を募集することで壁が越えられました。後は、実施した結果が好評だったので、次々と紹介の輪が広がって行きました。 4、体験型の教材が少なかったので、体験型の防災教材である事を強調しながら広報活動をしました。
<p>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</p>	<p>1、発想の転換・新ソフト開発（中間報告後の話）</p> <p>出前の実践を重ねているうちに、この迷路がノートパソコンのように思えてきました。持ち運べて、現場で立ち上げ使える。しかし、パソコンもソフト次第で、大きく売上げが変わります。今の迷路のソフトは、小学生を対象に制作した為に、防災教育をやさしく楽しく習う初心者向け教材で、中高生や、一般の人にも使えるソフトの開発の必要性を感じたのです。</p> <p>中間発表が済んでから、新しいソフトの開発を始めました。開発といっても頭の中で浮かんだ案を、ふるいにかけて行く作業の繰り返しです。枯葉の舞い散るころになって、何か違うなど、視点を変えてみました。迷路を倒壊した家という発想を大きく変えて、小さいけど自分の住む町と考えてみました。町なら町の防災を考えるのも防災教育の大切な地域活動で、中・高生用の教材になると思いました。そこで「防災マップを作ろう」というソフトを考えました。</p> <p style="text-align: center;">*迷路を倒壊した家 → 小さいけど一つの町に発想を転換した。</p>

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2、迷路（ハード）の組み立て方の変更

迷路を大人が通れるように → 組み立て時に、子供が走らないようにと通路の上に設けた、上部添え木（バー）と下部の添え木（ハードル）を、上部バーをやめ下部のハードルのみとしたら、背の高い大人でも腰を曲げずに通過できるようになりました。

3、コラボでソフト制作

◎ソフト制作にあたり、若者のやわらかい感性が必要と判断し、同じ認定団体の「地球防災隊」に協力を申し入れ、チェックポイントシートを作って頂き、ソフトは完成しました。結果は実践プログラム報告書⑬をご参照ください。

①迷路の各所に（15～20か所程度）、防災に必要な情報を、記号・絵図・写真などを、A4程度の大きさにラミネートし、チェックポイントとして迷路内に掲示します。

②迷路の略図を印刷した防災マップシートを参加者に渡し、入口から入場、遊び心で迷路を歩きながら、シートにチェックポイントの防災情報を記号で印して出て来ます。

③退場後、記号で印したシートから、防災情報の正確な番地を記載してもらい、防災マップとはどういうものかを理解して頂きます。

④「これなら私にも出来る。私の町でも作ってみよう」と言って頂ければ大成功です。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	奈良市立帯解小学校	迷路の出前授業①
	神戸市立こうべ小学校	迷路の出前授業③
	私立羽場保育園（三木市）	迷路の出前授業④
	神戸市立枝吉小学校	迷路の出前授業⑤
	岐阜県立岐阜盲学校（岐阜アソシア）	迷路の出前授業⑥
	神戸市立多聞ひまわり幼稚園	迷路の出前授業⑦
	私立学が丘幼稚園（神戸市）	迷路の出前授業⑧
	神戸市立太山寺小学校	迷路の出前授業⑨
	神戸市立東須磨小学校	迷路の出前授業⑩
	三木市立自由が丘東小学校	迷路の出前授業⑪
	神戸市立北山小学校	迷路の出前授業⑫
兵庫県立舞子高校	出前授業ボランティア⑬	
保護者・ PTAの組織	神戸市立多聞ひまわり幼稚園PTA	迷路の出前授業⑦
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設	人と防災未来センター（防災未来学校）	迷路の出前授業②
	兵庫県防災企画局・ひょうご安全の日集い （財）兵庫県青少年本部	迷路の出前公開授業⑬
	神戸市消防局	広報協力
	兵庫県神戸県民局	広報協力
企業・ 産業関連の組合等	神戸新聞・読売新聞・毎日新聞・朝日新聞 産経新聞・日本経済新聞・NHKTV サンTV・ラジオ関西・KBS京都ラジオ ZIPFM名古屋	広報協力
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	(特)日本災害救援ネットワーク	広報協力
	(特)移動支援フォーラム 心豊かな人づくり500人委員会 地球防災隊	広報協力 広報協力 ソフト制作協力他⑬
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	<ol style="list-style-type: none"> 1、防災楽習迷路の出前授業経験を重ねて、学年、学校の時限、指導法等の授業スタイルに合わせた出前が出来るようになりました。 2、地震で家が迷路になったという設定から、迷路を一つの町として考える新ソフトが完成しました。 3、新ソフトの誕生で、中学校、高校そして地域へと防災教育の幅が広がり、防災楽習迷路出前先の幅も広がりました。 4、学校側も・先生も、防災授業という未知の世界に、ためらいを感じている姿が見受けられるが、防災楽習迷路にプラスαの防災ボランティア体験談を添えると、とても好評でした。経験が生かされている思いがします。 5、岐阜アソシア棚橋さんの、「震災は障害者にも、平等にやって来る」の言葉に、コラボで得られた、全盲の方が迷路で防災学習するという、素晴らしい体験をしました。 4、メディアの協力も得られた事もあり、防災楽習迷路の出前依頼が来るようになりました。ありがたい事です。
全体の反省・ 感想・課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 公募で、防災楽習迷路の出前先を募集したことと、出前の記事が記事になった事もあり、最終報告作成までに10か所の出前予定が13に増え、報告終了後もまだ2か所あります。嬉しい反省点です。 ● 新しいソフトを作ってみて、まだまだこの迷路が使える領域の存在を感じました。経験を積み重ねて洗練されたソフトにすることと、新ソフトの開発が課題に思えます。
今後の 継続予定	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災楽習迷路の出前依頼が続いてあり、感謝しています。 ● 助成金の無くなる今後は、価値観のあるより喜ばれる防災楽習迷路に仕上げ、実費を戴き、NPOとしての防災教育活動の継続が可能にして行きたいと考えています。 ● 現在、「防災楽習迷路」の商標と迷路の意匠を、特許庁に申請中です。 ● 特に技術を独占する気はありません。実費を頂ければ制作して差しあげます。ただ、他人がこのアイデアを独占したり、お金儲けに使うようでしたら困るので、特許庁に申請しています。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ぼうさいがくしゅうめいろ ①防災楽習迷路による授業の詳細（家屋の倒壊編）

1、小学校の防災教育授業の実際

* 13回の迷路公開のうち本格的な小学校の授業は7回でした。その内容は下記の通りです。

- ① 事前の組み立てに4～5人で45分程度かかります。体育館を使用しました。
- ② 小学校の1時限は45分です。50名前後のクラスで迷路体験が約30分かかります。
- ③ まず5分の迷路説明をし、約体験30分。残りの10分程度を防災体験談で締め括ります。
- ④ 最大1時限2クラス70名を、1年～6年の全校生391名に実施した実績があります。

*以下は写真による解説です



*保育園児に迷路の説明をしています。板を通常の逆さに組んで低くしています。



*小学低学年です。ゲームの主人公になったように楽しそうに絵カードを探しています。



*小学校の高学年がゼッケンをつけ、班別に挑戦しています。



*持ち出したカードの確認も大切な作業です。何が必要か、頭の中に刷り込みます。



*野外で地域の防災イベントに。消防車も参加してくれると絵になります。



*最後の締めは、防災体験談です。非常時の水と、トイレの話で締めくくっています。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ぼうさいがくしゅうめいろ ②防災楽習迷路の詳細（防災マップ編）

1、新作ソフト「防災マップを作ろう」編の解説（迷路を町と仮定）

*迷路を1つの町と考え、町歩きをしながら防災情報を観察し、記号でワークシートに記入します。迷路内には別記2、のような多種類の防災情報板があります。

2、防災情報掲示板

- ・小学校、記号は文
- ・市役所は、記号は◎



3、「防災マップ」を作ろう！ 迷路ワークシート

NPO 法人ひまわりの夢企画

マップ作成者氏名 _____

図案協力 地球防災隊

◎迷路の鳥観図（上から見た町並み） ◇連絡先 Tel/fax 078 (787) 7387

*防災マップとは、地域の災害時に役立つものや危険な情報を地図にしたものです。次はあなたの町で。

文				出口		入口				
		◎								

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ③参考資料（参加者の感想文抜粋）

感想文① 親子で迷路を体験された方（お母さん・多聞ひまわり幼稚園）

子供は楽しく防災カードを集めていました。自分で先を見てどう行こうか考えていたので、自分で出来た達成感があったようです。私自身震災にあったのは高校生の頃だったので、ただオロオロと泣いていました。母親にスリッパを渡され、倒れたタンスの上に登ったり、くぐったり落ちて割れたガラスの上を歩いたりしたのを思い出しました。

感想文② 親子で迷路を体験された方（お父さん・多聞ひまわり幼稚園）

神戸は震災を経験してからより防災意識が高まっている中で、小学生より小さな年代、幼稚園児から、防災を学ぶ事は意味のある事だと思います。いつまた、あのような震災を体験しても、あわてずパニックにならないように小さな頃から親子で話を聞き、体で学ぶのは、先々役に立つと思います。迷路は、親子遊びの感覚で楽しかったです。

感想文③ 小学6年生（枝吉小学校）

防災楽習迷路は、おばあちゃんやおじいちゃん、ポチのカードを全部取ってゴールまで行かないきゃいけないから、とても難しかったです。でも迷路をしながら自分がマリオになった気分でした。最後の話で災害の時に、川の水をきれいにしたり、バケツを使ってトイレができることが分かりました。いろんな勉強を楽しくできてよかったです。

感想文④ 小学校5年生（枝吉小学校）

災がいをこんなにたのしく勉強が出て、たのしかったです。災がいがおきると、家が迷路みたいになるんだなあと思いました。ウォーリーをさがせみたいに、出口をさがせ、カードをさがせになりました。おもしろかったです。ありがとうございました。

感想文⑤ 幼稚園の先生（学が丘幼稚園）

迷路に自分が入って遊ぶ体験がありませんので、子ども達はすごく楽しそうでした。具体的に入るカードが、身近な人や動物でわかりやすかったです。「あわてない」という約束がなかなか守れないのが子ども達です。その中で、友達同士協力する姿も見られました。みんなとても笑顔で楽しんでいるのがよくわかりました。初めに話して下さった地震の時の水と、トイレ話もよく覚えていました。頂いたひまわりバッチ、すごく喜んでいて、「ずっとつけとく！」と帰りまでつけていました。ありがとうございました。

感想文⑥ 幼稚園の先生（学が丘幼稚園）

楽しい活動の中で人やペットを助け命を守るといことは、園児にとって良い取り組みだとも思います。園児たちも楽しかったと好評でした。保護者からも良かったということも多く聞いています。震災の記憶が風化して行く中での継承は、なかなか大変ですがこの度の活動とお話は、楽しい中で出来るので素敵だと思います。

2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ぼうさいがくしゅうめいろ ④防災楽習迷路の紹介チラシ

ぼうさいがくしゅうめいろ 防災楽習迷路のご案内

特定非営利活動法人ひまわりの夢企画

Tel・Fax 078-787-7387



阪神淡路大震災での経験から、30年先と言われる東南海地震に備え、子供たちへの防災教育の必要性を強く感じました。そこで楽しく習う体験型の教材、「防災楽習迷路」を考案制作しました。自治会、地域防災コミュニティ等のイベント、学校の授業等、ご希望があれば、実費で出前させていただきます。

防災楽習迷路とは？

☆震災で家が倒壊し迷路のようになってしまったという想定のもと、隠された絵カードを探します。

子供たちが楽しみながら、必要な物や活動を頭と体に刷り込んで行きます。

☆もう一つ、迷路を小さな町と仮定して防災マップ作り体験もできます。

設置のためには？

- ・ 10m×10m位の場所があれば設置でき、屋内屋外のどちらでも可能です。
- ・ 組み立て所要時間は、大人4人で45分程度で解体は20分程度です。
- ・ 他に長机二つ、椅子4つ、運営に4、5人居れば開催可能です。
- ・ 当方から一名が設備一式を持参し、組み立て運営の説明指導までを行います。
- ・ カードの絵柄は ①救助活動 ②防火消火活動 ③非常持ち出し品、の3種です。
- ・ 中・高校生・大人用教材に、「防災マップ」作り体験の活用法もあります。
- ・ 参加人数、参加者の年齢により目標クリア時間、難易度設定が可能です。
- ・ 対象は幼稚園から中学生位。大人も可能ですが天井が低く腰が疲れます。
- ・ 希望があれば、子供たちに防災講話を致します。